

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

フタムラ化学株式会社 広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広多賀谷二丁目1番2号

(3) 業種

無機化学工業製品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成24年度を基準年度とし、平成25年度から平成30年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、開発から生産、販売までのあらゆる事業活動において、環境に与える影響を考え、リサイクル活動、省エネルギー、省資源、産業廃棄物の削減に取り組むと共に、環境に配慮した製品づくりを推進します。

特に、環境への取り組みとして「ISO14000」の認証取得により継続的環境改善を推進します。

今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2 方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 設備更新、新設時最適な仕様検討による省エネルギー化促進
- 稼働時間調整による省エネルギー化の推進
- 社員への環境教育の徹底

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成24年度	平成27年度
二酸化炭素		12,013	7,135

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
メタン			
一酸化二窒素			
HFC PFC SF6			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
フロン類				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産量 (t)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (t)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成24年度)			原単位 削減目標 削減率 (d)	基準年度 (平成30年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	12,013	3,133	3.83	6.0	10,800	3,000	3.60
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	12,013	3,133	3.83	6.0	10,800	3,000	3.60
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	1.69	5.9	-	-	1.59
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は原単位ベース年1%の削減率						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	都市ガスの使用量を10%削減	・ 廃熱の有効利用
2	電気使用量の削減	電気の使用量を2%削減	・ ファン、ブロアのインバーター制御化 ・ 高効率モーターへの更新
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	ISO14001の維持	—	内部監査(2回/年)・維持更新審査
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

最高責任者を工場長、推進責任者をエネルギー管理者が行う。
実施状況の点検及び評価に関しては、製造チーム、工務チームと連携、情報共有し、進める。

(2) 実施状況の点検・評価

毎月使用エネルギー(都市ガス、電気)について会議にて報告を行う。
また毎年度、経済産業省へのエネルギー使用の定期報告、中長期計画の提出とともに
温室効果ガス削減の取り組み状況の評価、見直しを行う。

(3) 計画書等の公表

・事業所に備え付けて閲覧する。